

病院名	岩手県立胆沢病院
研修科目名	泌尿器科

◇ 研修目的

泌尿器科では、尿路・生殖器・副腎の解剖・病態生理を理解し、根拠にもとづいた医療を実践する。当科での研修の目標は、診療対象となっている疾患が、泌尿器科医による専門的治療の必要な疾患かどうかを判断できるようになること、かつ基本的泌尿器科疾患に対しては、適切な処置が行えるようになることである。

診察する上での心構えとして、ほとんどの患者様が泌尿器科での診察は恥ずかしいことと考えている点を念頭におく必要がある。その上で、理学的検査・尿検査・画像検査（US・KUB・IVP・RP・CT・MRI・DSAなど）・核医学検査・ウロダイナミクス検査・内視鏡検査・細胞診・生検などをおこない診断を導く。さらに検討会などで治療方針を決め、治療を開始する。

また患者様・家族の方々の心情などに充分配慮した説明態度を身につける必要もある。同時に、他科医師およびすべてのコメディカルスタッフと連携をもちつつ診療をおこなう。

◇ GIO（一般目標）

尿路・生殖器疾患の基本的知識に習熟し、患者様・家族の方々の心情・社会的環境・権利を十分に配慮し、チーム医療のもとに診療ができる。

◇ SBOs（個別行動目標）

- 泌尿器系、男子生殖器系の解剖生理・主な疾患を述べることができる。
- 患者心理を理解しながら問診し、病歴を正確に作成できる。
- 尿路および精路（腹部・陰嚢部・前立腺など）について理学的所見がとれ異常を指導できる。
- 尿検査、血液検査などの検査所見を正しく評価できる。
- 以上をふまえ鑑別疾患を述べるができる。
- 画像検査を読影し診断できる。
 - KUB・IVP・DIP・各種膀胱造影・尿道膀胱造影・US（・TRUS）が実施でき読影できる。
 - CT・MRI・血管撮影が読影できる。
- 全身状態を考慮し、鑑別診断に必要な検査を選択できる。
- 尿路感染症・尿路結石症を診断し、救急処置を実施できる。
- 排尿障害（尿閉・尿失禁など）が診断でき、導尿ができる。
- 排尿障害（排尿困難・尿失禁など）に使用する主な薬剤の作用・副作用を述べることができる。
- 腎・尿路性器外傷の診断ができる。
- 小児急性陰嚢症の疑診ができる。
- 膀胱尿道鏡検査で異常を指摘できる。
- 尿道・腎瘻など留置カテーテルの管理ができる。
- 肉眼的血尿について、出血部位を推定できる。
- 腎前性・腎性・腎後性に分類し、急性腎不全を診断できる。
- 腎後性腎不全の処置を述べることができる。
- 透析療法の適応および血液透析・腹膜透析の選択について述べるができる。
- 血液透析療法のブラッドアクセスについて述べることができる。
- 腎・尿管・膀胱・前立腺・精巣の癌について、治療法を述べることができる。
- 19について手術・生検などを経験し、概要を述べることができる。
- 勃起障害について経験し、治療について述べることができる。
- 手術創のドレーンの管理ができる。
- 性感染症予防・家族計画を指導できる。
- 泌尿器科癌患者の緩和医療の実践ができる。

◇ 研修方略

LS	方法	該当SBOs	対象	場所	媒体	人的資源	時間	学習時期
1	SGD	1.5~7 10.17 ~ 22 24	指導医 研修医	泌尿器科 外来	プリント 画像film	指導医 研修医	1時間	毎週火曜
2	病棟・外来 研修	1~25	指導医 研修医	病棟 外来	臨床研修 実技	指導医	6時間	毎日

◇ 研修評価

SBOs	目的	対象	測定者	時期	方法
9.10.15.24	形成的	態度・知識	指導医	研修中	レポート
1~25	形成的	態度・知識	指導医	研修中	観察記録

◇ 週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	病棟診療 手術 外来診療	病棟診療 ESWL 外来診療 手術	CADD 病棟診療 外来診療	病棟診療 手術 外来診療	病棟診療 ESWL 外来診療
午後	検査 手術	検査 ESWL	ESWL	検査 手術	検査 総回診 ESWL
夕方	病棟診療	病棟診療 症例会	病棟診療		

- * 隔週火曜日がん化学療法科を中心としたカンサーボードに参加している。
- * 入院患者については随時症例検討を行っている。
- * 不定期に病理科医、放射線科医とのカンファレンスも行っている。

◇研修内容と方法

1. 研修医は指導医とマンツーマンで患者を担当する。
2. 指導医の指導のもとで診察・検査・治療・インフォームドコンセントに携わる。
3. 可能な限り全症例の手術に入り、カンファレンス・回診では、担当患者様についてプレゼンテーションし、積極的に研修をおこなう。

◇平成26年度指導責任者及び指導医

泌尿器科指導責任者： 下田 次郎
 研修指導医： 忠地 一輝